

## 開校記念日 ～「成丘小の歴史」クイズ～

2023.5.15 校長 西谷 秀幸

今週の土曜日は、今年最初の学校公開です。コロナが5類になったので、今年からコロナ前のように、おうちの人にたくさん来てもらえるようになりました。土曜日まで学校があって大変ですが、皆さんが新しい学年になって成長した姿を見せてあげましょう。

さて、今日の日曜日、5月21日は、成丘小の開校記念日です。開校記念日とは、学校の誕生日のことです。成丘小は、今から67年前の昭和31年5月21日にでき、今年で67歳になります。そこで、今年も、成丘小の歴史や成丘小ができた頃について、皆さんに○×クイズを出します。去年、一昨年、3年前と似たような問題を出していますが、少し変えている問題もありますので、思い出したりしながら○か×で答えてみてください。

**①成丘小ができたとき、隣にはもう赤塚二中があった。**

(正解 ○ 赤塚二中は成丘小ができる9年前にできました。赤塚二中の隣の土地を持っている人たちが分けてくれたおかげで、成丘小ができたのです。)

**②成丘小は最初、赤塚二小という名前だったが、途中から成増ヶ丘小学校に変わった。**

(正解 × できたときから成増ヶ丘小学校でした。)

**③もともと成増小と赤塚小に通っていた子供たちが、分かれて成丘小に来ることになった。**(正解 ○ 成増小や赤塚小から分かれて、成丘小に通うことになりました。)

**④成丘小には、今、740人の子供がいるが、成丘小ができたときは、子供の数が、今よりもっと多かった。**

(正解 × 最初は377人。今の半分くらいの人数でした。)

**⑤成丘小の子供の数は、1000人を超えたことが1回だけある。**

(正解 ○ 59年前の昭和39年、東京で初めてオリンピックが開かれた年に1044人になりました。でも、1000人を超えたのは一度だけで、次の年に、355人が三園小に分かれていったので、一気に子供の数が減りました。)

**⑥成丘小ができた最初の年は、1年生から4年生だけで5・6年生がいなかった。**

(正解 ○ 4年生が一番上の学年でした。)

**⑦成丘小の最初の校舎は、木でできていて、鉄棒も今と違う場所にあった。**

(正解 ○ 窓の枠とドアがピンク色で、校舎のすぐ手前に鉄棒や階段がありました。今、みんなが過ごしている鉄筋コンクリートの校舎は49年前の昭和49年にできました。)



**⑧成丘小ができた頃、東武東上線や成増駅はまだなかった。**

(正解 × 東武東上線は成丘小ができたときよりも42年前もにできていました。成増駅の様子は今と全然違いますね。)



**⑨成丘小ができた頃、学校のまわりは畑ばかりで家が少なく、お店もほとんどなかった。**

(正解 ○ 学校のまわりは、家もお店も少なく、畑ばかりだったので、学校から東武東上線の電車が走っているところや富士山がよく見えたそうです。)

**⑩成丘小ができたばかりの頃は、学校に木がほとんどなかったの、木をもらって、日曜日にみんなで植えた。**

(正解 ○ 今、成丘小のまわりに木がたくさんあるのは、先生たちや地域の方、PTAの方たちが、日曜日に朝早くから植えてくれたおかげです。)

さあ、どうだったでしょうか。全問正解できたでしょうか。皆さんも成丘小ができた頃や歴史について調べてみたり、おじいちゃんやおばあちゃんが成増に住んでいる人は、ぜひ、昔の話を聞いたりしてみてくださいね。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

## 〈先生方へ〉

先日のOJT研修会では、今年度も学年・専科の枠を超えて広く学び合い、教え合う素地ができたように思います。若手の先生方は、とにかく自分から聞くこと、主任・中堅・ベテランの先生方は、自分の仕事を後回しにしてでも若手の相談・質問には親身に応えること…。それが、目指すゴールを共にした「真のチーム」だと思っています。水曜日の一斉部会での島崎教諭の社会科の授業も校内で応援し、支えていきましょう。

さて、今日の日曜日、5月21日は、本校の67回目の開校記念日です。今年度は日曜日ということで、例年以上に「開校記念日」という日を実感しづらいかと思いますが、子供たちや家族の誕生日がかけがえのないものであるのと同じように、自分たちの学校に誇りを持ち、いつまでも愛着をもってほしいという意味も含めて、今年度も5月21日という日を忘れないように、成丘小ができた頃や成丘小の歴史に関することを話題にしました。

しかし、昔のことを1つ1つ話しても記憶に残らないので、今回も〇×クイズという方法にしています。過去3年間の内容を再構成することで、少しでも記憶に残ってくれればと思います。今週は、ぜひ各学級でも開校記念日のことを話題にしてみてください。

ところで、新しい学年になり、第7週目となりましたが、学級経営は順調に進んでいるでしょうか。5月になると、子供たちも新しい学年・学級に慣れ、緊張感も薄れてきてほころびが子供たちの乱れとして表出してきます。ですから、学級経営方針を再確認して、学級のシステムを再構築する良い機会と捉えて取り組んでいきましょう。

うまくいっているクラスも大丈夫と安心するだけでなく、専科の先生方にすすんで情報を求めることが大事です。専科の先生方は全体を見ていますので、担任が気付かないことが分かっています。良い学級をつくるためには、自分だけの考えではなく、他の先生方からの情報を得て生かしていくことがとても大事です。そうすれば「自信が過信になる」ことも防げると思います。自分だけの考えで進むのではなく、他の先生方から積極的に学び、実践に取り入れるという姿勢を大切にしていきたいと思います。

土曜日は、今年最初の学校公開です。コロナの5類移行により、分散公開ではなく、コロナ前のように公開できるようになりました。子供たちが新しいクラス・学年になって成長した姿をぜひ保護者の方々に見ていただけるよう、準備をよろしく申し上げます。

### 【資料】成丘小の開校記念日である5月21日は「小学校開校の日」

1869年（明治2年）5月21日、京都市に日本最初の近代小学校「上京第二十七番組小学校」と「下京第十四番組小学校」が開校した。「上京第二十七番組小学校」は、後の「柳池（りゅうち）小学校」、「下京第十四番組小学校」は、後の「修徳（しゅうとく）小学校」である。当時の京都には、上京・下京のそれぞれに番組（学区）という行政区画が置かれ、番組ごとに小学校が建てられたため、「番組小学校」と呼ばれた。

「上京第二十七番組小学校」の創設者であり、私財を投じて校舎や敷地を寄付した商人・熊谷直孝（くまがい なおたか）を初め、多くの寄付や献金が住民から集まった。そして、地域が一丸となって学校の建設が進められ、年内には64の番組小学校が開校した。国が「学制」を定める3年前のことであった。

学制とは、日本最初の近代学校制度に関する基本法令のこと。

1872年（明治5年）に公布され、日本における近代学校の成立・発展の基礎となった。全国に小学校をつくり6歳以上の男女が身分に関係なく通うことを目指したもので、義務教育の始まりであった。

「柳池小学校」は戦後の新学制によって「柳池中学校」となり、統廃合を経て2003年（平成15年）に「京都御池中学校」となった。敷地内には「日本最初小学校」と記された石碑が建てられている。（<https://zatsuneta.com/archives/105211.html>）

